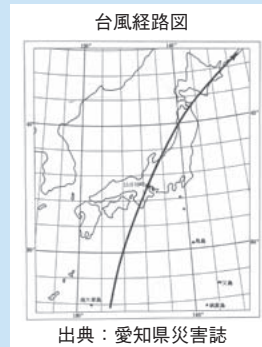


# 名古屋市域に被害をもたらした主な風水害

## 明治22年9月11日 台風による風水害

9月11日午後から暴風雨となり、伊勢三河湾には高潮が発生し、沿岸では高潮による水害が大きかった。熱田では19時頃高潮が来襲し、堤防が多数決壊したことから、豊田、柴田、笠寺、伝馬、星崎の各新田一帯が浸水した。なお、被害は三河の方が甚大となり死傷者も多かった。経路を見てみると伊勢湾台風とはほぼ同じであり、愛知県内に甚大な影響を与える台風が明治時代にも同じコースを辿っていたことが分かる。



愛知県の被害状況

人的被害	死者	876人
	負傷者	79人
住家被害	倒壊	7,191戸
	破損	55,626戸
	流失	7,132戸
	浸水	31,730戸

出典：愛知県災害誌

## 伊勢湾台風

伊勢湾台風は、昭和34年9月26日に伊勢湾周辺地域を襲い、過去最大の災害を引き起こした台風である。上陸時の中心気圧は929.5hPa、最大瞬間風速は45.7m/秒を記録し、観測史上第三位の台風であった。

台風による死者・行方不明者の数としては、明治から現在にわたり最大となり、その約9割が愛知・三重両県に集中している。

伊勢湾台風は名古屋市にとって最悪の経路を辿ったため、暴風や気圧低下による高潮を

引き起こし、名古屋港でも5.31m(N.P.)の過去最大の高潮を記録し、名古屋港沿岸の各所堤防を決壊させ、名古屋市南部を中心に大量の流水と貯木場の木材が流出し、多くの人命を奪い、建築物を破壊した。



名古屋市の被害状況

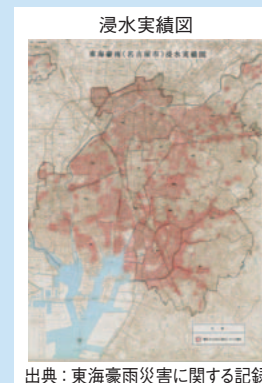
人的被害	死者・行方不明者	1,851人
	負傷者（重傷）	1,619人
	負傷者（軽傷）	38,909人
住家被害	全壊	6,166棟
	半壊	43,249棟
	流出	1,557棟
	床上浸水	34,883棟
	床下浸水	32,469棟

出典：伊勢湾台風災害誌

## 東海豪雨

平成12年9月11日から12日にかけて、日本付近に停滞していた秋雨前線は、台風第14号からの暖かく湿った気流の流れ込みにより活動が活発となり、東海地方は愛知県を中心に記録的な大雨となった。日最大1時間降水量97.0mm、最大日降水量428.0mm、総降水量566.5mm(名古屋地方気象台観測)はいずれも統計開始以来最も高い値であった。

市内河川では、西部を流れる一級河川の新川で左岸堤防が破堤したのを始め、破堤3箇所、越水17箇所の被害が発生し、市内の約37パーセントが浸水し、広範囲で内水・洪水被害が発生するなど、伊勢湾台風に次ぐ浸水被害となった。



名古屋市の被害状況

人的被害	死者	4人
	負傷者（重傷）	13人
	負傷者（軽傷）	34人
住家被害	全壊	4棟
	半壊	98棟
	一部破損	18棟
	床上浸水	9,818棟
	床下浸水	21,852棟

出典：東海豪雨災害に関する記録



# これまでの本市の風水害対策

## 伊勢湾台風以降の風水害対策

- 昭和35年5月に「名古屋市災害対策要綱」を制定  
名古屋港の高潮防波堤や防潮堤、ポンプ所の建設、貯木場の移転、河川改修を実施  
条例による市南部低地帯の災害危険区域の指定による建築制限  
街路、公園の嵩上げ及び地盤沈下対策等の推進  
水防資材の備蓄や災害対策委員制度の設置
- 伊勢湾台風を契機に制定された「災害対策基本法」に基づき、豪雨、洪水、高潮の風水害等を対策すべき災害として位置付けた「名古屋市地域防災計画」を昭和38年7月に策定。
- 昭和54年6月に、河川・下水道等の治水施設整備による全市的な視点に立った総合的な排水計画である「名古屋市総合排水計画」を策定。昭和63年10月に見直し。

## 東海豪雨以降の風水害対策

- 著しい浸水被害が集中した地域などを対象に原則1時間60mmの降雨に対応する施設整備へ向上させる「緊急雨水整備基本計画」を平成12年に策定し、ポンプ増強や雨水貯留施設の設置などを実施。
- 市内177箇所に同報無線の整備を実施。
- 監視カメラによる水害危険箇所の常時監視の実施。
- 洪水ハザードマップの作成。
- 平成16年9月の瑞穂区を中心とした局所的集中豪雨を受け、「緊急雨水整備基本計画」の一部見直しを行った。
- 「自助」「共助」「公助」の理念を位置づけ、災害に強いまちの実現を目指した「名古屋市防災条例」を平成18年10月に制定。

## 近年の風水害による被害と対応

- 平成20年8月末豪雨を受け、「緊急雨水整備基本計画」に含まれる地域では、一部計画を見直すとともに、それ以外の地域では、新たに「第2次緊急雨水整備計画」を策定。
- 平成23年の台風第15号及び秋雨前線豪雨の被害を受け、甚大な浸水被害に見舞われた守山区志段味地区では、堤防の嵩上げ等の雨水浸水対策を実施。
- 洪水・内水ハザードマップの作成。
- 平成28年9月に「名古屋市風水害対策実施計画」を策定。